

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

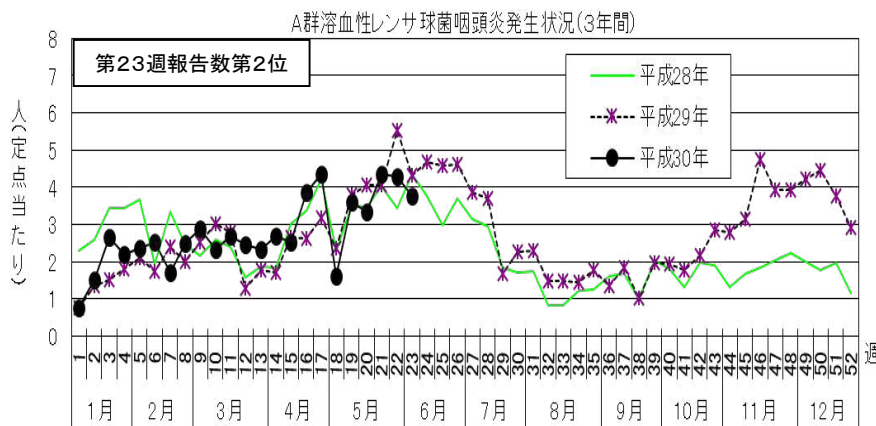
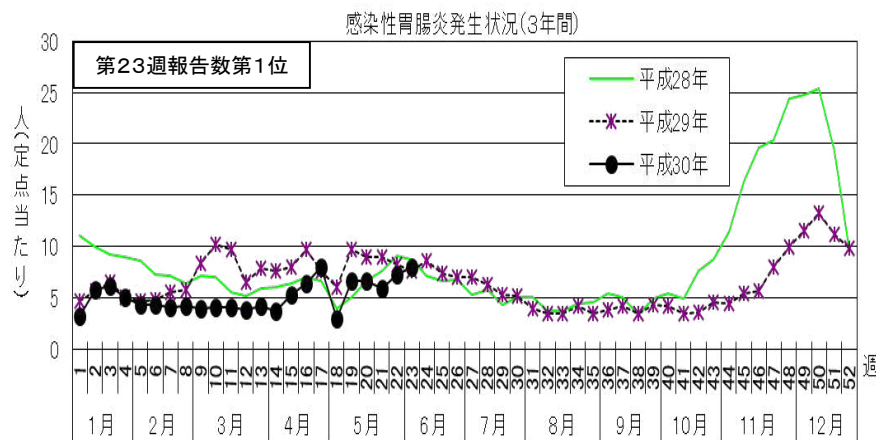
平成30年6月4日（月）～平成30年6月10日（日）〔平成30年第23週〕の感染症発生状況

第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.92人と前週（7.22人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.76人と前週（4.30人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は3.00人と前週（3.67人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



過去10年間で最多の報告数～伝染性紅斑～

川崎市では今年の4月下旬以降、ヒトパルボウイルスB19を原因とする伝染性紅斑の患者報告数が増加しています。平成30年第23週（6月4日～6月10日）には定点当たり報告数が2.35人となり、流行発生警報基準値（定点当たり2.00人）を超えたため、市内に流行発生警報を発令しました。特に宮前区、多摩区、麻生区で報告数が多くなっています。

伝染性紅斑とは？

感染経路: 咳や鼻水などによる飛沫・接触感染

潜伏期間: おおむね4～15日間

好発年齢: 就学前後の小児

症状: 両頬に境界鮮明な紅い発疹が現れ、一般的に「リンゴ病」とも呼ばれる。また、成人では関節炎症状が出ることもある。

治療: 特異的な治療方法はなく対症療法が中心

妊婦が感染し胎児に感染が及ぶと、胎児水腫といわれる異常などがみられることがあります。

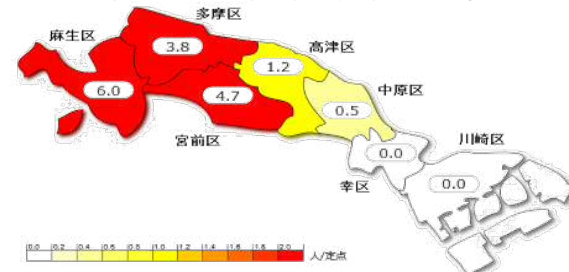
※胎児水腫とは・

胎児の心臓や肺などに水が溜まったり、全身の浮腫などがみられる状態で、流産に至ることもあります。

流行期には、かぜ様症状のある小児との接触は避けましょう。



川崎市における伝染性紅斑分布マップ(第23週)



川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)